紹介

パソコン通信で GINet にアクセスした経験について

西影 裕一*

Access to GINet

Hirokazu NISHIKAGE*

1. はじめに

今回報告させていただくパソコン通信については、『情報地質』第3巻に地質調査所による地質情報ネットワーク (GINet) の案内 (佃, 1992) が載っていたことがきっかけである。それまで通信をやるのか, どうしようかと迷っておりパソコン通信に関する情報だけは集めていたが, この案内で迷いが吹っ切れモデム等を購入し通信を始めることにした。ここでは, 初めてパソコン通信を行った者がどんなことに困ったかを紹介することにより, これからやろうという人のお手伝いができればと思って, 各種のマニュアル本には出ていないことを書くことにする。

使用したパソコンとモデムおよび通信ソフトは以下の通りである。

- ・コンピュータ NEC 98NOTE NS/T (ノート型)
9801VX 2 (デスクトップ型)
どちらにも ICM の 40M のハードデスクをつけている
- ・モデム オムロン MD24FP 5 V (ポケット型)
 - ・ 2400bps 全二重
 - ・ V42bis MNP クラス 5 搭載
 - ・ AA/MA/MM 対応 NCU 搭載
 - ・ ヘイズ AT コマンド準拠
 - ・ AC100V/DC6V (2WAY電源)
- ・通信ソフト まいとーく ver 2.1 ((株)インターコム)
- ・MS-DOS は 米Microsoft 社の登録商標です)

2. 通信を行うまでに

(1) モジュラージャックの配線工事について

まず, 電話線の工事から始まった。以前はジャックの取付は NTT でないとできなかったが, 法律の改正で自分で

できるようになった。局番無しの116番に電話するとジャックをもらえる。しかし, 自宅の電話は親子電話なので取付工事をしないといけなかった。工事費は消費税込みで 8,549円であった。NTT の職員の話では, 親子電話は主機につけなければいけないとのことで, 主機は台所のところにあるので困ったなと思った。取付工事は NTT の外注になっているので, 業者は実際には主機のところからパソコンを置いている自分の部屋にまで線を付けてくれたので助かった。なぜ助かったかという点, 送られてきたデータはひとまずハードデスクやフロッピーにセーブできるが, 後でプリントするからプリンターのある自分の部屋の方が都合がよいからである。しかも, モデムはポケット式でデスクトップ型パソコンにでもノート型パソコンにでも取付ができるので, デスクトップ型パソコンの置いてある自分の部屋にまで線を引いてくれると 2 台とも使えるのである。なお, キャッチホンは通信中に電話がかかってくると通信は切れてしまうとのことである。

(2) モデムの機種選択について

モデムには外付け型, 内臓型のほか最近ではポケット型もある。外付け型は大きくて重いので移動には適していない。移動しない分それだけ故障しにくいという利点がある。内臓型はパソコン本体に組み込まれているから取りはずしをしなくてもよい。特にノート型パソコンの場合は便利である。しかし, セカンドバッテリーをはずしてモデムを取り付けるので, AC アダプターをつけずバッテリーで使用するとうちにバッテリーは上がってしまうという欠点がある。これは後で述べるが公衆電話を使うときに問題が生じる。以上のことから, 私はポケット型が良いのではないかなと思う。私の使っているモデムは11×8.5×2.5cmの大きさなので手のひらより小さい。またどのようなパソコンにでも簡単に取付ができるので便利である。しかし, 小さいだけにどこかに当てたりして壊れる危険性は大きい。

(3) 通信ソフトについて

* 兵庫県姫路市立花田中学校, Hanada Junior-high School, Ogawa 1246 Hanada-cho Himeji 670, Japan.

通信ソフトを使わなくても通信はできるが、設定等が慣れない者にはたいへんである。通信ソフトを使うと、一度設定をしておけば自動的に電話をつないでくれるので便利である。通信ソフトとしては、まいとーく（29,000円）やCCTがよく使われている。WTERMは無料のソフトであり、通信で入手できる。たいへんよくできており、プロのソフトと比べて遜色がないとのことである。

(4) 業者のネットワークに入会するために

NIFTY-serve（富士通）やPC-VAN（NEC）などのネットワークに加入するとき、VISAとかJCBのようなカードを作っておくと支払が便利である。PC-VANは使用料金が銀行の口座から引き落としができるが、NIFTYはカードからでないとできない（できることはできるが別料金がかかる）。カードは申込をしてからできるまでに1カ月近くかかるから、早い目に作っておられた方がよい。

3. GINet へのアクセス

(1) プロトコルの設定について

「まいとーく」での設定はマニュアルと佃（1992）を参考にして行った。ここで気をつけなければいけないのは「自動起動プロトコル」をYmodemにすることである。XmodemでもよいがYmodemの方が速く受信・送信ができるからである。

(2) はじめてGINetアクセスして

佃（1992）を参考にしながら、GINetへのアクセスした経験を以下に述べる。

接続するとはじめにIDは、と聞かれた。まだIDを取得していないので、GUESTと入力した。入力した文字はワープロのようにすぐには画面に出てこないで少しあせった。次にプロフィールと聞かれるので自己紹介を入力した。続いてよいよ本論にはいい、5つの選択項目が出てくる。読みたい（または書き込みたい）項目のアルファベットを入力すればよい、また前の項目に戻りたいときは、ESCキーを押せばよい。普通のソフトを使用するとき、前画面に戻るときはESCキーを押せばいいことぐらい分かっているのに、先ほども述べたように入力してもすぐには画面に出ず反応が遅いため、初めてやったときはとまどい、同じところを何回も行ったりきたりした。はじめてアクセスしたときは午後6時で普通料金の時間帯だったため、あっという間に1,100円ほどもかかってしまった。この経験でやり方がようやく分かり、その日の午後10時に再度挑戦すると1回目と同じ内容を読んでもわずか70円であった。なお、「まいとーく」では通信が終わると電話料金が表示されるので便利である。

(3) 公衆電話を使って

公衆電話でパソコン通信ができるのかと不思議に思われ

るだろうが、最近設置されてきた灰色の国際兼用公衆電話（ISDN；緑色ではない公衆電話、灰色でもジャックがなく使えないものもある）には、右下にモジュージャックの差し込み口があり、テレホンカードまたは金貨を入れて使用できる。操作方法は電話機に表示されている。右下にモジュージャックが2つあるが、デジタルではなくアナログの方に差し込む。操作切り替えのボタンを押し、テレホンカードを入れ、通信を開始する。

たくさんのテレホンカードを持っているので、さっそうこここからGINetにアクセスできるかどうかを試みた。しかし、何回センターを呼び出してもすぐに切れてしまい、テレホンカードが出てくるだけである。通りがかりの人は変な目でみるし、ついにはパトカーまで止まり不審尋問される始末である。結局50分近く試みたがつながらず、パソコンのバッテリーも無くなり1回目は退散した。

日曜日なのでホストコンピュータを切っているのだろうかと思ったりしたが、自宅に帰りやってみるとちゃんとつながるのである。なぜつながらないのか、プロトコルが間違っているのではないかといろいろ考えた。結局のところダイヤル式とプッシュ式の違いに気がついた。「まいとーく」をパソコンのハードディスクにインストールするとき、自宅の電話機にあわせてダイヤル式に設定していたので、プッシュ式の公衆電話ではつながらないのは当然であった。プッシュ式に設定し直そうと思ったが、そのようにハードディスクにインストールすると今度は自宅で使えなくなるという問題が生じるので、公衆電話を利用するときにはプッシュ式に設定したフロッピーで立ち上げ、接続するようにした。このような苦労の末ついに公衆電話からGINetにアクセスすることに成功した。家庭の電話機がプッシュ式の場合は、このようなことを工夫はいらないのはいうまでもない。

(4) データの送信について

このようにして、GINetへのアクセス法が理解できたので、今度はデータの送信を試みた。この経験から送信法の概略を以下に述べる。

あらかじめ送信したいデータを作成しておくのであるが、一太郎Ver4で作るとき、テキストファイルかVer3の形式でセーブしておくといふ。ロータス123では、[F]ファイル→[S]セーブではなく、[P]プリント→[F]ファイル（テキストファイルで保存）にしておくといふ。

次に、送信方法を述べる。GINetのメニューで[M]（Mail Box）を押す。そして[W]（書き込み）を押す。すると、タイトル名は、と表示が出るので、タイトル名を入力する。次に自分のファイルを送信するのであるが、「まいとーく」では次の手順で簡単に送信することができる。

HELP キーを押すと、選択メニューが表示されるので、「テキストファイル送信」を選択する。画面に表示されるファイルの一覧のなかから送信したいファイルを選びリターンキーを押すと送信が開始される。送信されるファイルの内容が次々と流れるように画面に表示され、全部送信されると「終わりました」という表示が出る。キーを押すと終了する。

以上は、テキストファイルの送信方法であるが、バイナリーファイル（プログラムや一太郎 ver 4 の形式でセーブしたもの）の場合は、HELP キーを押すと現れるメニューで「プロトコル送信」を選び、Ymodem で送信するとよい（Xmodem でも送信できるが、Ymodem の方が速く送信できる）。

送信を試みてから何日か後、GINet にアクセスすると「手紙がきています」という表示が出ていた。さきほどと同様に、[M] を押し、[R]（読み込み）を押すと「送信ありがとうございました」という主旨の文が表示された。これで先日の送信がうまくいったことがわかった。

(5) 地学に関する新聞切り抜き及びテレビ番組の一覧表

以上のような方法で、今まで10数年間個人的に集めてきた地学に関する新聞切り抜きの一覧表（177件）とビデオに録画したテレビ番組の一覧表（141件）を GINet で送信してありますので、受信してみてください。表に掲載した新聞の切り抜きやビデオについてのご希望があれば下記にご連絡ください。

〒670 兵庫県姫路市岡町33 西影裕一
(TEL 0792-93-1873)

(6) その他

パソコン通信するにあたって、ハードディスクがあるかあるいはフロッピーディスクドライブが2つあるときは特に問題はないが、ノート型パソコンでフロッピーディスクドライブが1つしかないときには、データをセーブするときにフロッピーに入りきらないこと恐れがある。そのようなときは、システムディスク中で、なくてもよいファイルをデリートするしかないのではないかと思う。

最後に、このような拙文を報告するよう奨めていただいた大阪市立大学理学部地球学教室環境情報研究室の皆様にお礼申し上げます。

文 献

佃 栄吉 (1992) 地質情報ネットワーク (GINet) について. 情報地質, 3, 97-99.

(1993年5月23日受付, 1993年6月20日受理)